

## 6-2 吉野川下流域の地下水分布（河口から岩津の間）

### （1）地形地質と地層の形成

砂礫層や砂層のように地下水を豊富に持ち、透水性の高い地層を帯水層と呼びます。徳島平野の地下水利用の盛んな帯水層は、今から2万年前までに吉野川の堆積作用により形成されたものであります。

#### 《解説》

徳島平野の地盤形成過程を説明すると、下記のようになります。

更新世末期（今から約2万年前）には寒冷化に伴って、海面の低下が進行しました。この時期には、吉野川の河床の低下が進み、D層（主に砂礫層）の上面には、図-6.2.1のような古い吉野川の流路跡が形成されたと推定されています。その後沖積世に気候の温暖化に伴って海面が上昇し、C層（砂～砂礫）B層（海成粘土層）A層（沖積世の河川氾濫原）が堆積したと考えられています。

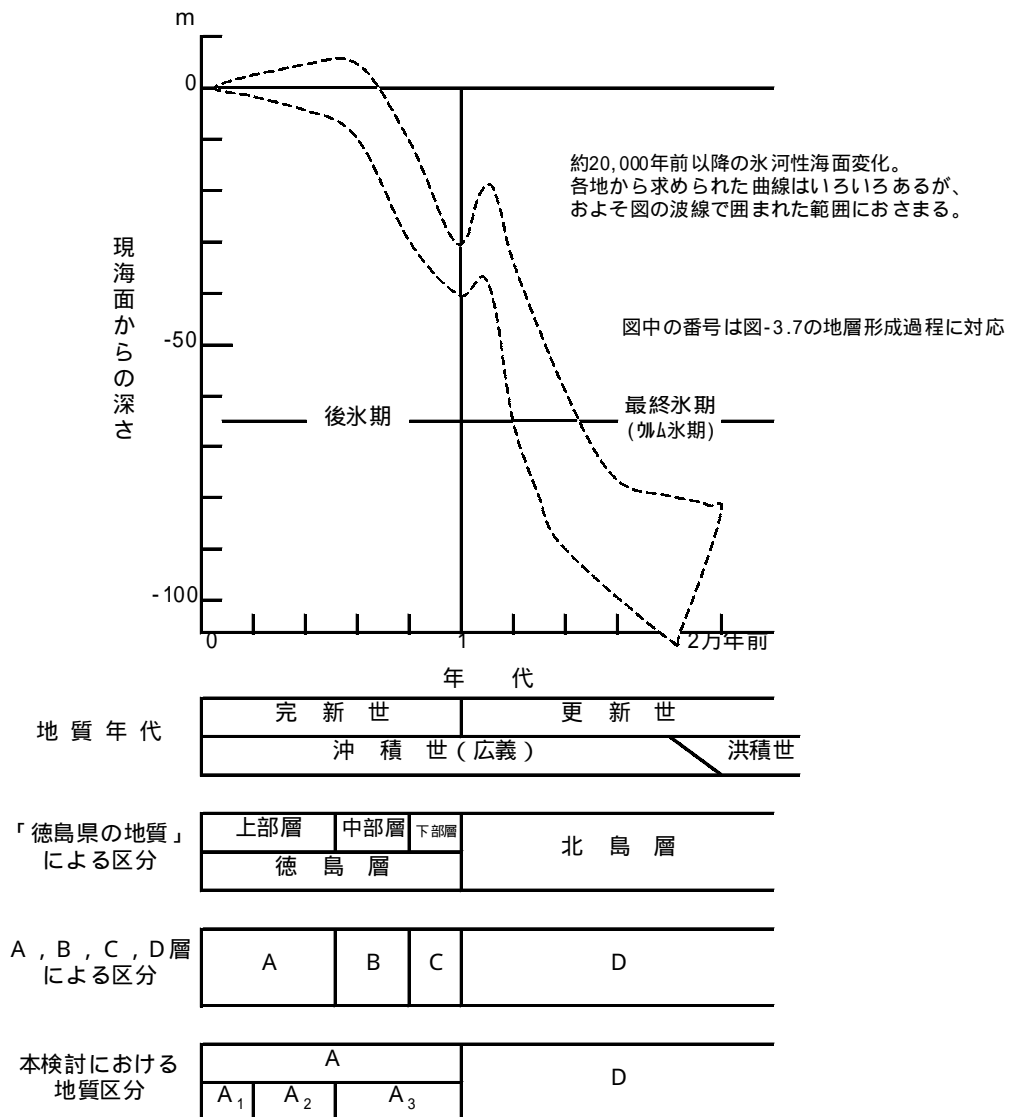


図-6.2.1 吉野川下流域の地層区分の比較

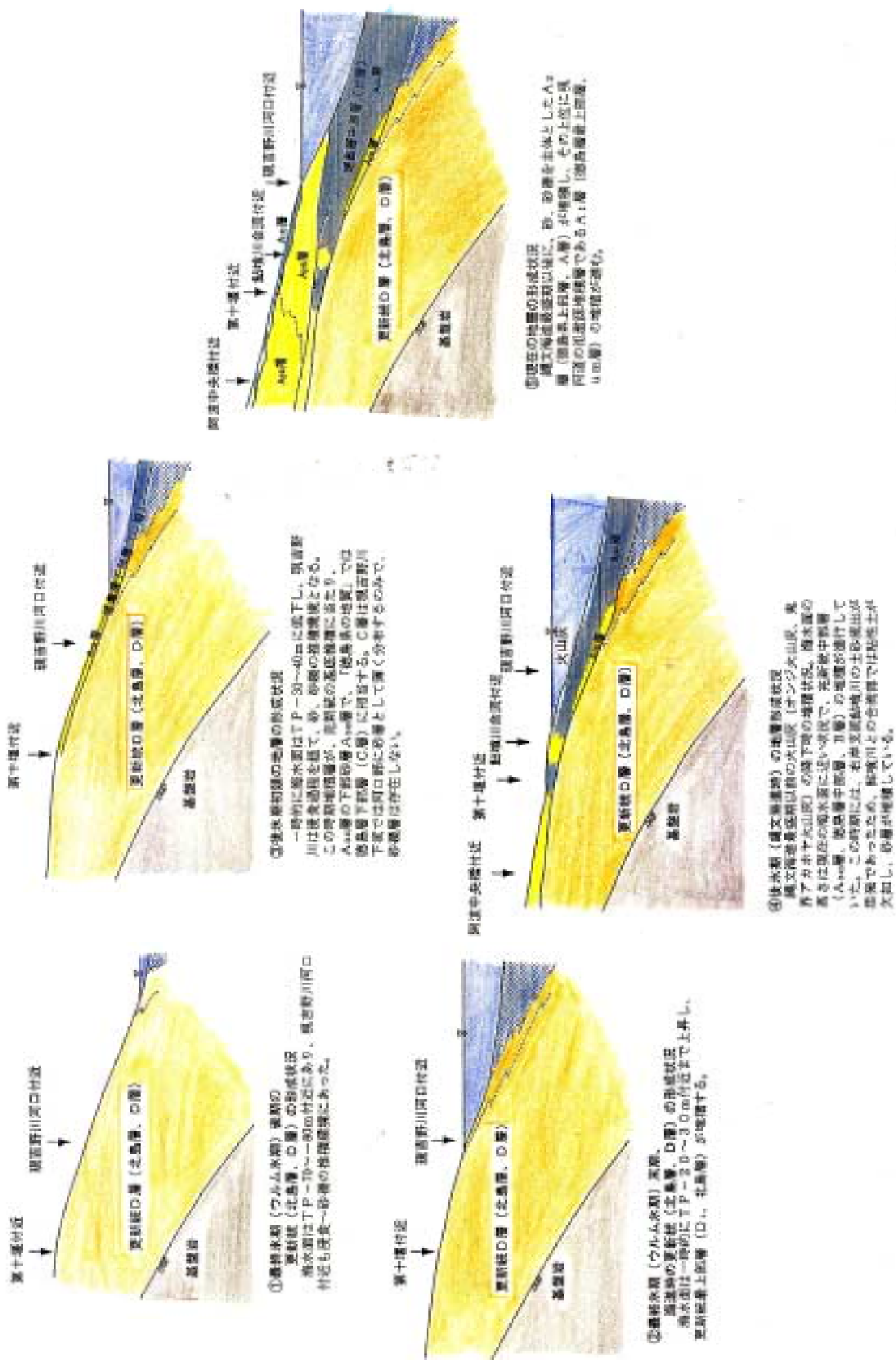


図-6.2.2 吉野川下流域の最終水期後期の地層形成過程